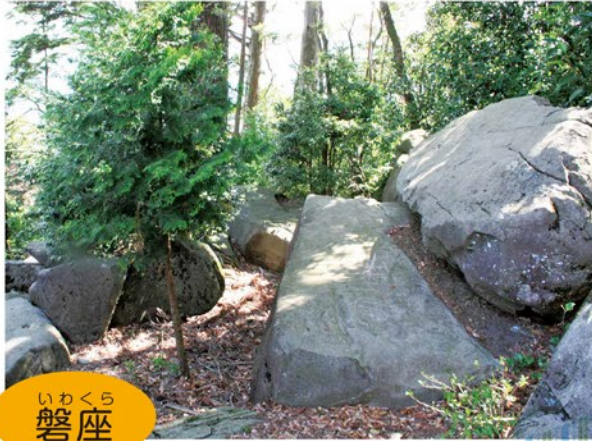


じょうぐう
上宮

くにたまじんじゃじょうぐう 国玉神社上宮

くぼてさん さんちょう
求菩提山の山頂は、天から神がやってくる場所として古くから特別な場所でした。国玉神社上宮のまわりにあるたくさんの大きな岩は磐座と呼ばれ、そこに神が宿ると信じられていました。



いわくら
磐座

明治のはじめに
「護国寺」から
「国玉神社」に
かわったよ。



「じろう」

くにたまじんじゃちゅうぐう 国玉神社中宮

昔は「護国寺」というお寺のあった場所で、修行のための建物などがあり、求菩提山修験道の中心地でした。



こまばあと 護摩場跡

護摩というのはお供え物を火で燃やし、お祈りをするというものです。山伏たちは「火の中にお供え物をなげこめば、それが煙や炎となって天に昇り、天の神がこれを食べる。そして神は喜び、願いをかなえてくれる。」と考えたのです。